大館の歴史散歩

遺跡と遺物 ⑦

北海道の土器文化

昭和四十七、八年の「片山館コ」発掘調査において、大館地方では見なれない数点の土器片が、竪穴群に伴って発見された。暗黄色の堅くしまった焼成の良好な土器で、それは五世紀末から六世紀前半に、北海道全域に発達した江別Ⅲ式土器である。

近年、青森県垂柳遺跡から、弥生時代中期の水田跡が発見され、東北地方北半部でも紀元一、二世紀のころに、水田稲作農耕が行われていたことが確認された。同じころ、大館地方にも水稲農耕文化が受容されたとみてよいだろう。

しかし、その後、水稲農耕文化がどのように発展したかは、現在のところ不明であるといわなければならない。その後の時間経過の中で、六世紀前半ごろに、狩猟採集文化である江別式土器文化が南進して、津軽海峡を渡り、仙台平野の江合川流域に達する東北北半地域に濃密に拡大する。

この現象は、四～七世紀ごろの全地球的寒冷化による、水稲農耕の南への後退に伴う、狩猟採集文化の北からの南進が原因という説や、日本古代国家の確立により、その中心地に強大な農耕社会が生まれた結果、陸・海の自然産物・獣皮・鉱産物などの諸物資を東方に求めた経済的要求に伴い、狩猟採集文化の南進を引き起こしたという説、などが述べられている。

基本的には、この北方の狩猟採集文化は、仙台平野江合川流域を境界に、南からの古墳文化（日本古代国家）と対峙していた。

「片山館コ」遺跡では一～三規模の小竪穴を「コ」字型に配した竪穴群（集落と呼べるかどうかは現在のところ判然としない）を構えた、北方的文化要素を強くもつ集団が、長木川を望む「タテ」状の台地に、六世紀前半ごろに住んでいたようである。

市役所史跡探訪会

私の本棚

中央図書館新着図書

「警察回り」
本田靖春著
（新潮社）

本書は、著者がバー素娥のバアさんと「天声人語」で名文家の誉れ高い深代淳郎と共に生きた「警察回り」時代を再現したもの。昭和30年代前半は、警察回り記者にとって最後の良き時代で、支配する気分は「無頼」だったという。

◆ 一般書 ◆

◇ジャーナリズム博物誌（バルザック）◇殺人紳士録（J・H・H・ゴーテ）◇漢字の話（藤堂明保）◇漫才作者秋田實（富岡多恵子）◇金ぴか時代のアメリカ（ガットマン）◇花園の迷宮（山崎洋子）◇おかあちゃんは二人いらない（江戸家猫八）ほか

◆ 児童書 ◆

◇歌あそび百科（一木昭男ほか）
◇パパのいない転校生（ベックマン）
◇すからおちたこすずめ（オットー）
◇授業がなかった学校（伊藤治子）

◆10月のテーマ関連図書コーナーは「職業」です。

◆親子読み聞かせ会は
10月17・24・31日、11月7・14日

◆中央図書館の休館日は
10月19・23日、11月3・16・23・24日

協賛行事など

◇桂城公園
- **菊花展**（11月1日～5日）
- **植木展**（11月1日～5日）
- **秋田犬展**（11月3日）

◇働く婦人の家〝婦人会館まつり〟
（10時～17時）
11月1日・お茶会、展示会、バザー食堂コーナー、ダンスの夕べ
11月2日・お茶会、展示会、食堂コーナー

◇卸売市場〝市場まつり〟
（11月2日8時45分～12時）
市民参加セリ売り、青果・水産物の特価即売お祭り広場（量目クイズ大会、ゲームコーナー、試食コーナーなど）

農産物展

—11月1日～3日—

11月1日・米消費者懇談会（13時・中央公民館）
・農事発表大会（15時・中央公民館）
11月2日・腕ずもう大会（10時・市民体育館）
・とろろめし大喰い大会（12時・市民体育館）
・地区別演芸大会（13時・市民体育館）

〈会期中の催し物—市民体育館〉
農産物・果樹共進会、生活工夫展、園児と小学生「図画・書道展」、寿作品展、米鑑定会、ちびっこもちつき大会、農畜産物・手づくり食品即売会、食堂ほか

第7回 大館市郷土品まつり

つくって 使って 育てよう わが郷土品

商工展

- 11月1日～5日
- 中央公民館
（サンアビリティーズ・大館）

◇住んでよし心豊かな木の住まい展（製材品、建具、家具など）
◇機械金属品展（機械器具、刃物など）
◇食料品展（菓子、農産加工品など）
◇地酒と清酒文化展　◇繊維品展
◇鉱業資源と新素材展　◇米まつり
◇伝統工芸品展（曲げわっぱと秋田杉桶樽）
◇黄金のふるさと展（金細工の製作実演）
◇健康とくらし展　◇陶芸展と焼物教室
◇林業展（大館営林署「森林の市」ほか）